

令和 5 年度自己評価表 （最終）

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標		実績値	目標値				評価 (自己評価の結果)	改善策
						令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
確かな学力	他者と協働し、主体的に学び続ける。	学力の向上	○授業の中やすきま時間を使って、習熟のドリル等に取り組みせる。 ○発達段階に応じた説明課題に取り組みせる。 ○選択制家庭学習に取り組みせる。	○江田島市学力調査全国平均点との比較 ○学期末テストの平均点 国語 読解力 (思考・判断・表現) 言葉、漢字 (知識・技能) 算数 (思・判・表) 算数 (知・技)		国 99.4 算 100.9 国 (思) 87.0 国 (知) 81.6 算 (思) 82.3 算 (知) 87.4	国 101 算 101 国 (思) 85 国 (知) 85 算 (思) 83 算 (知) 87	国 101 算 101 国 (思) 85 国 (知) 85 算 (思) 83 算 (知) 87	国 101 算 101 国 (思) 85 国 (知) 85 算 (思) 83 算 (知) 87	国 99.5 算 103.4 国 (思) 88.1(+3.1) 国 (知) 85.1(+0.1) 算 (思) 79.8(−3.2) 算 (知) 86.4(−0.6)	・朝や給食前の時間に辞典を使って漢字の意味についても調べたり、小テストをしたりするなど、漢字の学習や算数科でつまづきのある内容の問題を中心に行う。また、書く活動を授業の中に取り入れる。その際、漢字を使うことを意識させる。 ・読むことの授業では、見つけた言葉を使って要約する習慣をつける。文章問題では、大事な言葉や数字に下線を引くなどして、読み間違いのないようにする。 ・算数プリント、ドリル等を継続して取り組み、やりきらせる。	
		授業力の向上	○自学と協働的な学びを組み合わせた授業づくりに取り組む。 ○教材研究と児童への働きかけについての研修を行う。	① 自律的な学習意欲に関する意識調査（4年以上）（2回：4月と1月） ② 学習行動調整力についての意識調査（3年以上）（2回：4月と1月） ③ 教員の見取りと働きかけ力のチェックシートによる振り返り		①同一化的レベル 10.6 ②自律項目(9) 3.32 協働項目(3) 3.42 ③ 3.54	上昇	上昇	上昇	①同一化的レベル 10.6 ②自律項目(9) 3.20 協働項目(3) 3.50 ③ 3.7	・児童が見通しをもって学習を進められるように、自身が学び方や学びの進み具合について振り返る時間を1時間の授業に位置付ける。今年度の「発達段階に応じた自学スタイル」の研究とともに、低・中・高学年における見取りと働きかけチェックシートを作成し、授業改善に生かす。	
豊かな心	自らを律し、他人を思いやり、夢や目標に挑戦する。	社会性の育成	○生活目標の取組を徹底する。 (あいさつ、返事・時間までに静かに集合・だまって掃除、言葉遣い) ・月ごとに目標を設定し、毎月、児童に自己評価させる。 ・学期ごとにあいさつについて相互評価させる。 ・全職員で随時、全児童の評価を行う。	○教師と児童の見取りによる達成率	あいさつ、返事 時間までに静かに集合	91%	92%	93%	94%	94.3%	・掃除の評価月は来年度も6・11・2月に行い、振り返りをしやすくする。 ・言葉遣いなど学校外でもきちんとできるように取り組む。特に、ゲームや携帯電話の使用時の言葉遣いに気を付けるようにさせる。	
					言葉遣い	89.5%	91%	92%	93%	89.6%		
		自己肯定感・自己有用感の育成	○行事ごとに児童に目標をもたせるとともに、振り返りを行い、肯定的評価を行う。 (学活や帰りの会で互いのよさやがんばりを認め合う場を設定する。) ○各学年で、実感を伴う豊かな体験活動を推進する。 ○個の実態に応じた支援、指導を行う。	○児童の肯定的評価の割合(アンケート) ○不登校の報告件数	自己肯定感	92%	93%	94%	95%	85.5%		・来年度も体験的な活動や、児童自身で学校をつくっていくという意識をもたせた取組を行っていく。 ・アンケートを自分の良さや頑張りを認められるような問い方に変え、より自分を振り返られるようにする。
					自己有用感	93.6%	95%	96%	97%	87%		
					昨年度との比較	2名	1名	0名	0名	1名		
健やかな体	自己管理能力を高め、主体的に自らの健康や体力の向上を図る。	体力・運動能力の向上	○体力の向上をめざして、体育の授業改善や全学年の体力向上運動の充実を図る。	○50m走において、体力・運動能力調査の全国平均を上回る児童の割合 ○2分間走において、各学年で設定した目標値達成の割合(学年数)		66.8% 66.6%	68% 達成できた学年数3学年	69% 達成できた学年数4学年	70% 達成できた学年数5学年	67.9% 達成できた学年数3学年	・休憩時間に、脚力や持久力をあげるため、外遊びの推進を図っていくとともに、体育委員会を介した遊びを広めていくことで、体力向上を図っていく。 ・二分間走は各学年で決めた目標値にどこまで近づけたか経過を掲示したり、放送で目標を達成できた学年を紹介したりして児童の意欲を高める。	
		健康で自律した生活習慣の育成	○学活・保健朝会・ミニ保健指導において、睡眠を中心とした保健指導を5回以上実施し、早寝の定着を図る。 ○年3回生活リズムウィークを設定して生活リズムカードを実施し、課題のある児童の個別指導を行い、保護者と連携した取組を行う。	○生活リズムカードにおける「早寝・早起き・朝ごはん」3項目のうち、「早寝」項目の全児童合計達成率 一人：5日間＝5p 全校児童161人×5p＝805p		79.2%	78.5%	79%	79.5%	82.2%	・メディアと視力の関係や、メディアと姿勢の関係について、保健指導を行う。 ・児童の生活リズムの実態を把握するためにアンケート調査を行い、個別指導をしていく。また、必要に応じて、保護者へも個別に啓発する。	
信頼される学校	積極的に情報を発信し、地域・保護者との連携を図る。	地域・保護者との連携の推進	○学校教育目標の具現化に向けた取組や児童の状況をタイムリーに通信やHPを通して積極的に発信することで、学校満足度を向上させる。 ○ボトムアップによる業務改善を積極的に行い、ウェルビーイングな職場環境を実現する。	○『学校通信』や『学級通信』等で、児童の様子や学校の取組がよく分かる。」「大古小学校の現状に満足している。」の項目に対する肯定的回答の割合 ○アンケート実施回数 業務改善実施件数		97% 96% 3回5件	95%以上 95%以上 3回6件	95%以上 95%以上 3回7件	95%以上 95%以上 3回8件	98% 97% 3回6件	・肯定的回答割合ポイントが前回より上がった。今後も継続した取組を行っていく。 ・「月45時間以内」という意識付けやそれに伴う教職員の行動の変容を見ることができた。来年度は、コミュニティースクールの準備を行いつつ、地域の協力による子供と向き合う時間の確保を目指す。	